

①：CEFR A1レベル相当以上を達成した中学生の割合（R6-R5）
 ②：CEFR A2レベル相当以上を達成した高校生の割合（R6-R5）
 ③：CEFR B1レベル相当以上を達成した高校生の割合（R6-R5）

福岡県

①：+11.3%、②：+1.9%、③：+0.6%

- R5全国学調の結果を分析し、「聞くこと」が十分できていない、日本語での解説中心の授業が見られる等の課題を可視化。
- **生徒の英語使用、デジタル教科書を活用した音読、授業冒頭のSmall Talkを増加するプロジェクトを推進。**
- 県主催で研修を実施し、受講者が地域の研修会等で共有。

高知県

※文科省R6委託事業

①：+8.1%、②：+3.2%、③：+1.1%

- **大学の有識者に、県の状況の分析や事業の計画時点からの助言を依頼。**生徒の英語使用が不十分等の課題と、ALTの参画が豊富等の強みを可視化。
- **言語活動の質の向上、小中高の接続等に取り組む研究推進校を設定。**
- **全中学校への指導主事訪問や全中学校1名（悉皆）参加の研修。**
- **地域の魅力を子供が英語で発表する取組を実施（5市町、14小中高から参加）。**

京都府

※文科省R6委託事業

①：+10.6%、②：+4.7%、③：+3.7%

- 英語を学ぶ意義を実感できるよう、台湾の中学生と**オンライン交流**し、英語で「地域のおすすめの場所」等を紹介。
- 交流前の練習や交流後の復習として、**AIを活用した会話・発音練習**を実施。

岡山県

①：+2.3%、②：+1.1%、③：+0.3%

- **MEXCBT「話すこと」の問題を中学生に配信（自分の英語力に応じた問題を選択）。**県作成のワークシートを活用し、**生徒がサンプルアンサーと自分の解答を比較し、自身で改善点を見つけて表現を見直せるようにすることで、スピーキング力と自己調整力の向上につなげた。**

福島県

①：+2.4%、②：+5.3%、③：+0.7%

- 大学の有識者に依頼し、県の状況を独自に分析。ALTが生徒の英語力や教師の英語力・英語使用に好影響を及ぼしていることを明らかにした。これを踏まえ、**教師の効果的な英語使用等に関する研修・教師のCEFR B2相当以上の取得補助**を実施するとともに、**ALTを増員。**

生徒の英語力が高い自治体の取組例

福井県

【授業改善】

- 学習指導要領で「英語で授業をすることを基本とする」と明記される（※）以前から授業を英語で行い、生徒が意見や考えを英語で表現するなどコミュニケーションを重視した授業を実践。（高校はH21改訂、中学はH29改訂から）
- 県内の中学校・高等学校の全ての英語教員が会員となる研究会（福井県英語研究会）があり、英語弁論大会、英作文コンテスト（高等学校）、英語セミナー等の企画・運営、リーディング・リスニングテストの作成、英語教育の研究活動等を実施。
- 県教委と福井県英語研究会や県中教研英語部会が連携。県内各ブロックリーダーと定期的に情報交換を行い、好事例を共有。

【外国語指導助手（ALT）の活用】

- 全ての中学校・高等学校にALTを配置。JETの任期終了者の中で優れた者を県独自のALTとして採用。
- 英語の授業以外の活動にもALTが積極的に参加。

【その他】

- 外部検定試験の全額補助（全中3対象）。外部検定試験の結果分析等をもとに、指導の好事例や改善点を共有。
- ディベートを取り入れた授業や英語ディベート大会などを実施。高等学校専門学科でのパフォーマンステストの充実のため、「ふるさとツーリズム英会話検定」を導入（生徒が福井の観光地を紹介する動画を提出し、ALTとの対面試験を実施）。

さいたま市

【授業改善等】

- 小1～中3まで教育課程特例校。市独自の小中一貫カリキュラム「グローバル・スタディ」の授業時数を増加。市独自の教材作成（小1～小6向け）や「グローバル・スタディ」の理念・指導法を教師に理解してもらう研修等を実施。

【外国語指導助手（ALT）等の活用】

- 市独自でALTを採用し、全ての小・中・特別支援学校に配置。小学校の授業においては複数の教員（担任教師、専科教員、グローバル・スタディ科非常勤講師、ALT等）による指導を実施。

【その他】

- 中学校で外部検定試験を活用し、結果分析をもとに教師の授業改善と生徒の学習改善のための研修会を実施。
- ディベート大会やイングリッシュ・キャンプ、海外の学校とのオンライン交流など、授業外での体験活動を充実。